



## お正月（タイ編）

### 1. はじめに

「Wan Nee Pen Wan Songkran, Nhoom Sao Chao Baan Berk Baan Jit Jai Jing Aei...」

これは、タイの人々が、新年を祝って必ず口ずさむ歌の一節です。お正月になると、あちこちでこのフレーズを耳にします。タイのお正月は、ソンクラーン祭り (Songkran festival) とも呼ばれています。これは、タイの中でも最も重要なお祭りで、旅行者にもとても人気があります。老若男女問わず、参加者はタイの伝統的なスタイルに則って、新年の到来を祝います。

### 2. お正月シーズン

タイのお正月は、日本とは異なり、4月に訪れます。ソンクラーン祭りは、毎年4月13日～15日の間に始まります。ソンクラーン祭りは、1年を通して最も長い大型連休（テサカーン・ソンクラーン）でもあります。ゴールデンウィーク (GW) ならぬ、ソンクラーンウィーク (SW) といったところでしょうか。連休中は、帰省ラッシュ。都市部で働く人たちは、地方の実家に帰省します。日本でもお正月は家族と過ごすものだと聞いていますが、タイでも同じこと。親戚が一同に会し、家族の絆を確かめ合う。これがタイの正月の習慣になっています。

### 3. ソンクラーン祭り

ソンクラーン祭りの代表的なスタイルは、主に3つ。祝福の儀、初詣、そして最も盛り上がる水掛け祭りです。

### 3.1. 祝福の儀

「祝福の儀」とは、年長者に敬意を払うための儀式。若者が、年長者の手に水をかけます。時には、若者は、花輪を年長者に渡すこともあります。その見返りとして、若者は年長者から祝福を受けることができます。



【写真1】 祝福の儀（出典：Wikipedia）

### 3.2. 初詣

タイには、僧侶の説教を聞くために地方の寺院を訪れる習慣もあります。お賽銭の代わりに、僧侶の前にある鉢に食物を寄付することもあります。1年の最初の日（元旦）に寺院を訪れると、ご利益があるとされています。さながら初詣です。

寺院に砂を持ち込むという伝統もあります。寺院には、正月以外にも一年中人々が訪れます。そのため、寺院内の砂は、訪問者の靴と共に、寺院の外に出てしまうと考えられています。この伝統は、一年の始まりの日

に、前年持ちだされた土を寺院に戻すという考えに由来しています。こういった理由から、寺院の近くに住む人々は、テーサカーン・ソクラーンになると、寺院に砂を持ち込むわけです。

### 3.3. 水掛け祭り

タイのティーンネイジャーや外国人の間では、ソクラーン祭りで水を掛けあうイベントが流行っています。本シリーズでは以前、「お正月（ミャンマー編）」<sup>1</sup>として、Water Festival（水掛け祭り）をご紹介しましたが、隣国タイのスタイルもこれに似ています。4月は一年で最も暑い時期です。互いに水を掛けあうことで、一年の始まりを祝うだけでなく、涼を取ることもできます。さらに、水掛け祭りには、人々の心の距離を縮める効果もあります。最近では、水鉄砲、バケツ等のアイテムも使われています。中には、水だけではなく、粉を掛ける人も。要するに無礼講です。エスカレートしてくると、サバイバルゲームのように楽しむ若者もいます。道端に停めてあるトラックの後ろに身を潜め、ターゲットがやってくるのをひたすら待ち構えている姿を見かけることがあります。読者の皆さんは、4月の中旬にタイを訪れて人々が水を掛け合う場に出くわしたら気をつけて下さい。彼らは外国人であろうと容赦はありません。もちろん、皆さんも戦いの場に参加することもできますよ。

水掛け祭りは、多くの場所で行われています。例えば、バンコク、パタヤ、サムットプラーカーン県、チェンマイ、コンケン、ソクラーンなどの大都市。こういった場所は、若者に人気がある街で、水掛け祭りも大いに盛り上がります。

## 4. 結び

ソクラーン祭りの伝統は、以前とは形が少し変わっています。しかし、タイの新年の



【写真2】 チェンマイの水掛け祭りの様子  
(出典：Wikipedia)

訪れを祝うという本質的な伝統はしっかりと守られています。タイでは、新年を迎えると、ソクラーンの日に自分自身を見つめ直し、前年の邪気を振り払い、そして、来る年の福を祈ります。タイの正月の一幕は、古い伝統と新しい文化の見事な融合と言えるでしょう。これが、世界中の観光客を魅了するタイの文化の一つでもあります。

1 お正月（ミャンマー編）、知財ぷりずむ（2014年7月号）

### 著者紹介

**Ms. Pawarisa Suwannachote (ปาวริศา)**

タイ知的財産弁護士（Patent Attorney）、Ananda IP所属。1990年ノタプリー生まれ。名前の由来は「Excellent-person and the great」。タンマサート大学法学部卒業。専門は商標。2013年にIPキャリアをスタート。趣味は映画鑑賞、読書、サーフィン。好きな言葉は「Enjoy life」。

<http://www.ananda-ip.com/>

### 編訳者紹介

**木本大介（きもと・だいすけ）**

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>